小川原湖は生態的に貴重な湖です

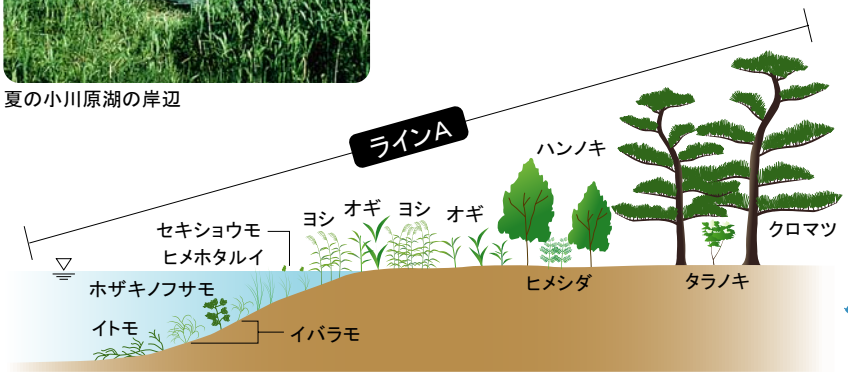
●植　生

夏の小川原湖の岸辺

岩に付着したマリモ

フシグロセンノウ

アサザ



- 小川原湖の植生は陸域から湖内に向けて連続的に変化しており、湖付近の北緯41°線が暖温帯と寒冷地の境界であることから、異なる気候帯の植物が共存しています。▪
- 過去の現地調査では、合計919種の陸生・水生植物が確認されています。▪
- 2001年には湖内でマリモの仲間が確認されており、汽水湖での確認は国内でも貴重な資料となっています。

●渡り鳥の飛来状況

- 小川原湖は多くの渡り鳥の飛来地です。特にガン類にとっては主要な渡りのルート上にある小川原湖が重要な中継地となっています。▪
- 現地調査では、留鳥を含め144種が確認されています。▪
- 全国的に分布が限られているオオセッカの主要繁殖地かつ分布地でもあるとともに、市柳沼や小川原湖周辺ではカンムリカイツブリの繁殖地として知られています。▪
- オオセッカの繁殖地である仏沼は、平成17年にラムサール条約に登録されました。

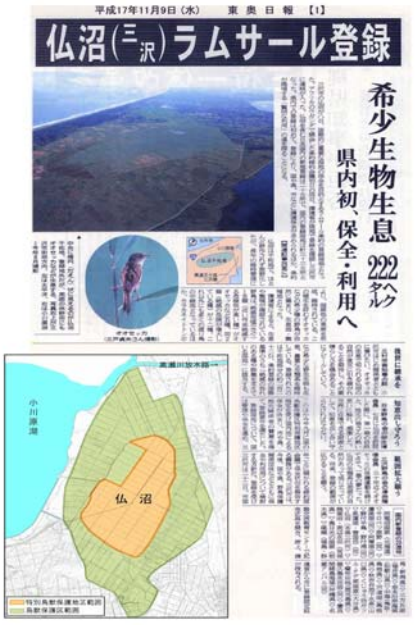
※河川水辺の国勢調査（平成13～16年）結果より

オオセッカ

オオハクチョウ

ダイゼン

カンムリカイツブリ


平成17年11月9日（水）　東奥日報【1】

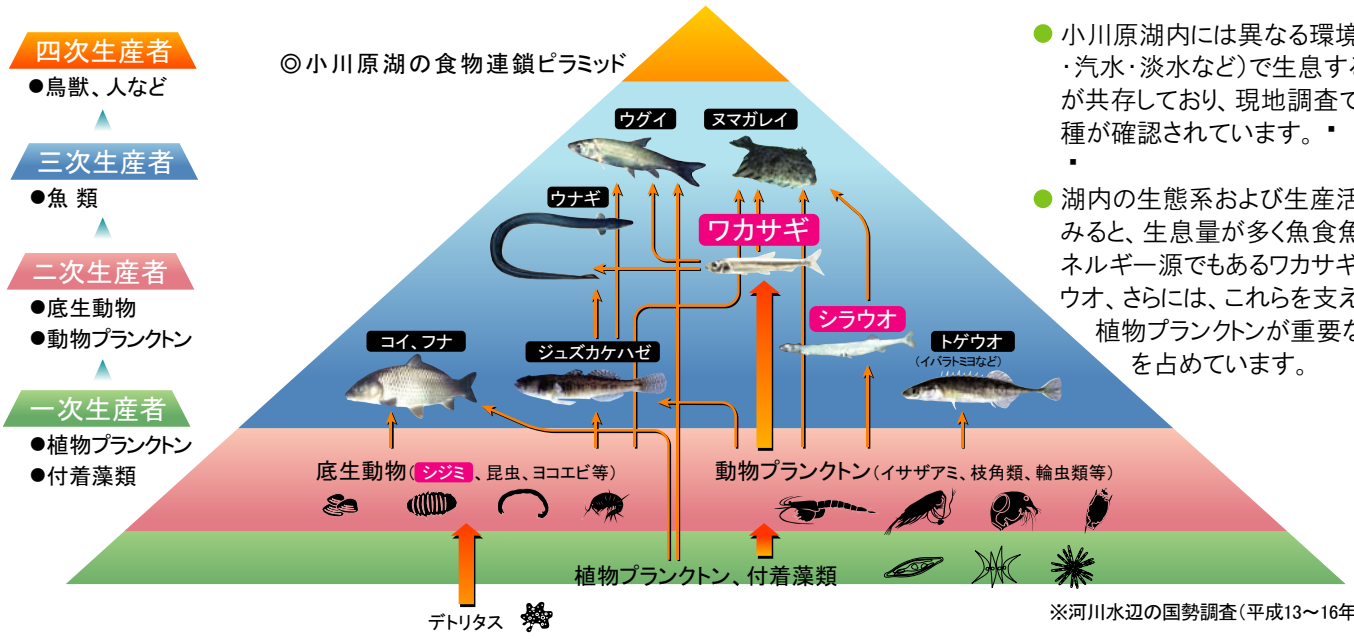
仏沼（三沢）ラムサール登録

希少生物生息 222ヘクタール

県内初、保全・利用へ

新聞記事「東奥日報」（平成17年11月9日）

●小川原湖の食物連鎖からみた生態系主要構造



- 小川原湖内には異なる環境（海水・汽水・淡水など）で生息する魚類が共存しており、現地調査では54種が確認されています。▪
- 湖内の生態系および生産活動からみると、生息量が多く魚食魚のエネルギー源でもあるワカサギ・シラウオ、さらには、これらを支える動植物プランクトンが重要な位置を占めています。

※河川水辺の国勢調査（平成13～16年）結果より